



東京五輪開会式を前に五輪の輪を描くブルーインパルス(産経新聞社提供)

異例の1年延期、感染対策、無観客一。「スポーツの祭典」は新型コロナウイルスの感染が国内で急速に拡大する中で始まり、幕を閉じた。開催国の日本国内のみならず世界で開催の賛否が分かれ、「オリンピック、パラリンピックとは何か」「スポーツとは何か」が問われた。

57年ぶりに東京で行われたスポーツの祭典。その舞台裏では、国学院大学の学生、教職員、卒業生(院友)が大会にさまざまな形で携わっていた。今回は、「先輩に聴く」特別編として五輪に関係した2人の院友をクローズアップ。スポーツを通じた教育、国際親善について考える。

長野県松本市にある私立松本国際高等学校の山崎豊茂教頭(平15卒・111期日文)は、6月に行われた陸上の日本選手権男子100mで2位に入り、男子4×100mリレーで日本代表入りしたデーデー・ブルーノ選手(東海大)を育て上げた。高校2年生から陸上を始めたブルーノ選手を急成長に導いたのは「人間の器を広げろ」という自身が本学陸上競技部で培ってきた信念だ。

大会前、各国の代表選手を受け入れるホストタウン事業にも院友の奮闘があった。大阪府泉佐野市でタオル製造会社を営む奥龍将さん(平23卒・119期日文)はアフリカ・ウガンダ共和国政府の特命コーディネーターとして泉佐野市と長野県立科町のホストタウン事業に奔走。新型コロナの感染や、選手の一時行方不明など奮闘の舞台裏を振り返り、国際親善には「分かち合う、分かち合う」姿勢が必要と言葉に力を込める。

大会期間中、国内では新型コロナの感染が全国的に広がり、緊急事態宣言の対象地域も拡大した。未曾有のオリ・パラを、もろ手を挙げて歓迎できなかった人も多かったかもしれない。しかし、2人の院友の言葉には、スポーツの祭典の舞台裏を知る当事者でしか語ることができない叡智がある。



先輩に聴く 特別編 スポーツの祭典は何を伝えるのか

4. 5面に関連記事。K:DNAⅡ面には大会ボランティアに参加した学生の声

みはるかすもの

スケートボードで困難な障害に積極果敢に挑むことを「ゴン攻め」、パラスポーツ・ボッチャでジャックと呼ばれる的球に近づけることを「ビタビタ」と表現する▼東京五輪・パラリンピックの期間中、これらの言葉に触れた人は多いのではないか。未知の表現に違和感を抱く半面、世界から集った選手たちが繰り出す妙技の数々が言葉に説得力を与えた▼コロナ禍の大会は開催の賛否が分かれ、開催都市・東京にいる私たちにとても自国開催の実感は薄い。しかし、画面越しに接したアスリートの躍動は、新しい世界を知る機会を多くの人に与えた▼

「ゴン攻め」に目を見張ったスケートボードや、同じく新種目のスポーツクライミングでは、ライバル同士が健闘を称えあう姿に、勝ち負けを超えたスポーツの神髄を見た。いつでも「おごらず、ひたむきに」。アスリートに学んだ姿勢だ▼パラリンピックのシンボルマーク「スリーアギトス」という単語も、この数カ月で多く目にした。日本パラリンピック委員会の公式サイトによれば、「アギト」は、ラテン語で「私は動く」を意味し、「困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアン」を表現しているという▼後期の授業が始まった。便利さも、感染対策も、困難も、不自由も――多くの感情を綱い交ぜにしたコロナ禍の授業は、1年半が過ぎた。世界も、日本も混沌とする今、あきらめず挑むのは私たち一人一人だ。

「令和3年梅雨前線豪雨等による災害」および「8月の大雨による災害」で被災された皆さまへ

「令和3年梅雨前線豪雨等による災害」および「8月の大雨による災害」による災害により被災された皆さまに、衷心よりお見舞いを申し上げます。

本学学生のご家族をはじめ、卒業生、関係者の皆さま、罹災者の方々の生活が一日も早く平常に復するよう、本学としてもできる限りの支援を行う所存です。

令和3年9月20日 国学院大学

観光まちづくり学部 設置認可 令和4年4月開設へ

国学院大学の6番目の学部として3月に設置認可申請を行っていた観光まちづくり学部は、大学設置・学校法人審議会による設置を可とする答申を受け、文部科学大臣から8月27日付で設置が認可された。同学部は令和4年4月、観光まちづくり学科を置く一学部一学科体制で開設される。

同学部は、人口減少社会における地域の次世代への継承という社会的課題と、それらに取り組む人材育成という社会的要請に応えることを目的としている。文系、理系の垣根を超え、環境・社会・経済に関する幅広い知識と技術を身につけ、地域を支える学問を理論と実践の両面から横断的に学ぶことを掲げている。学部での学びを通じ、地域の歴史や文化、自然を見つめ、観光を基軸に持続可能な「まちづくり」を考え、多様な側面から地域に貢献できる人材育成を目指す。

初代学部長に就任予定の西村幸夫・新学部設置準備室長は「地域から観光を考えると、いうスタンスを『観光まちづくり』という学部・学科名称として明確に打ち出すことが認められたのは大変ありがたい。ほかにない本学部ならではの特色をアピールしていきたい」と話す。



考古学研究室が古墳の発掘調査 オンライン説明会も初実施

国学院大学考古学研究室が、8月5日から14日にかけて国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区(長野県安曇野市)で古墳の発掘調査を行った。調査には感染予防策を徹底したうえで、学部生・大学院生と教員ら約30人が参加した。

この発掘実習は正課授業の一環として実施。学生たちは前期授業を通じ測量や写真撮影、製図など調査に必要な技能を学ぶとともに、調査計画の策定と検討などの事前準備を行ってきた。

今回は、6世紀後半から8世紀前半の古墳80基以上からなる穂高古墳群に属するF9号墳とE6号墳を調査。F9号墳は平成21年から同研究室が発掘調査を実施しており、過去には横穴式石室から直刀や勾玉、土師器、須恵器など多数の副葬品が出土している。今回は新たに推定した墳丘の規模と構築法の確認を目的に調査を行った。

E6号墳は、今年度から調査を開始。次年度以降に備え、墳丘規模の把握を目的に調査を行った。

調査責任者の深澤太郎・研究開発推進機構准教授は「F9号墳は土層断面などから墳丘の直径が最低でも11m以上はあると確認できた。E6号墳は穂高古墳群で最大規模の直径約18mで、今回は30点以上の須恵器の破片などが出土した。今後、周辺の古墳と出土品や規模などを比較し、古墳群内の階層性を探りたい。2つの古墳は同時代のものでも距離も近いがF9号墳の基盤は砂礫層、E6号墳の基盤はローム層と墳丘の様相が異なる。その違いによる墳丘や構築法の差異も明らかにしていきたい」としている。

12日には、オンラインでの説明会を開催。国学院大学博物館スタッフや学生らが土層や土器の破片などを映しながら発掘調査の成果などを説明した。説明会の動画は本学博物館のYouTubeで配信している。

QRコードで配信している。

後期授業開始 引き続き対面と遠隔を併用

令和3年度の後期授業が9月20日から始まる。後期授業は前期と同様、感染予防策を講じた上で、おおむね50人未満の授業はすべて対面とするなど、通学を前提として運営する。50人以上の授業についてはハイブリッド(対面と遠隔の同時併用)としつつ、感染予防の観点から教室を配当できない授業は遠隔で実施する。今後も首都圏の感染状況などで実施方針を見直す場合がある。

本学では渋谷キャンパスで職域接種(3面に関連記事)、たまプラーザキャンパスで地域と協力した接種を実施するなど学生、教職員にワクチンの接種が進んだが、引き続き感染予防の徹底を呼びかけている。

成績優秀者奨学生を表彰

令和3年度成績優秀者の表彰式が7月14、15日、渋谷キャンパス(文・経済・法・神道文化学部)、たまプラーザキャンパス(人間開発学部)で感染予防策を講じて行われた。

15日に行われた文学部表彰式では、矢部健太郎文学部長が「コロナ禍で学修環境も影響を受ける中、優れた成績を修めたことを誇りにし、今後も学修に励んでほしい」とあいさつした=写真。

文学部を代表し高橋日菜さん(史4)は「考古学、民俗学に興味があり、国学院大学に進学した。1年次から専門的な学修ができ大変充実している。大学院に進学し学問を追究していきたい」と述べた。



学校法人国学院大学人事

◇参与
【新任】
▷千田史朗(前滝川市副市長)
令和3年8月1日付
※任期は令和5年3月31日まで

山岡敬和元教授 逝去

山岡敬和元文学部教授が9月8日に逝去。65歳。葬儀は近親者のみで既に執り行われた。

山岡氏は昭和30年生まれ。56年国学院大学文学部卒業、61年同大学院文学研究科単位取得退学。国学院大学文学部兼任講師などを経て、平成2年同専任講師。6年助教授、14年教授。令和3年自己都合退職。

専門は日本中世文学。博士(文学)。著書に『説話文学の方法』(新典社)、『ゆく河の水に流れて 人と水が織りなす物語』(同)などがある。

●神々にひたすら「心」を寄せる

学問ノ道

第36回

青戸波江と神社祭式

青戸波江(1857~1929)は、皇典講究所・国学院大学の祭式教員として神社祭式行事作法の基礎を築いた人物であり、今日まで神社界において多大な尊敬を集めている。

青戸は出雲国意宇郡(現在の島根県松江市和多見町)に鎮座する賣布神社社家の出身であり、幼名を礼太郎と称した。両親から日々礼法を教えられたため、将来自分を礼の研究に従事させようとの意から「礼太郎」と名付けたのではないかと青戸の言が残されている。松江藩校修道館で皇漢学や剣術を修め、明治10(1877)年には神宮教院本館へと進み、卒業後は伊勢神宮に奉職した。この時の祭事への奉仕が祭式を修養する意志を固めた第一歩となった。

15年の皇典講究所創立にともない、青戸は剣道師範に就任して撃剣の指導に当たった。その教授法は、多数の学生を整理させ、一つの型を号令のもとに一斉に行うというもので、青戸はのちの祭式講習でも応用している。

青戸はまた皇典講究所運営の中心人物であった松野勇雄のもと、23年の国学院設立に携わる。国学院設立に臨み、初代所長山田顕義は、所員一同を招集して「諸君は物乞いとなつても、国学院の維持・発展を遂げる覚悟はあるか」と問い、所員は皆一致してその決心の旨を示した。青戸はこの時の決意を常に抱き続け、後年、官国幣社司職への推挙の話があった際、この時の誓いに殉じて国学院に留まったため、松野は青戸の手を取って感涙したという。国学院草創期に青戸は同主事として学務の中心を担い、松野を補佐した。30年代に祭式教員に転任した青戸は、40年の「神社祭式行事作法」制定



青戸波江



青戸直筆の扁額と祭式の実習に臨む学生たち

(内務省告示第76号)に際し、一貫して主たる役割を担った。祭るべき神に心をまづ寄せて、身のふるまひは後と知るべしなどの遺詠に示されるように、ひたすら神々に「心」を寄せ、その「心」を作法にあらわす想いが、青戸により整備された神社祭式行事作法の基礎をなしている。

青戸は、全国各地に出向いて祭式講習を行い、数千人以上におよぶ神官神職を指導・育成した。また自宅の一角に家塾である顕彰塾を設け、学資に困った学生の世話を含めて、日々訓育に努めた。顕彰塾の出身者には、国学院第3期生で終戦直後の最も混乱した時期に国学院大学理事長・学長としてその維持・発展に尽力した「国学院中興の祖」と称される石川岩吉がいる。今日でも祭式教室には、青戸直筆の扁額と写真が掲げられており、祭式の修養に励む学生たちを見守っている。

神道文化学部教授 齊藤智朗

オンライン短期留学

コロナ禍でも国際交流の経験を

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で、海外留学を取り巻く状況は大きな影響を受けている。国学院大学が留学入門プログラムとして実施する夏期短期留学は昨年に続き海外渡航を見合わせた。

国際交流課では留学にチャレンジし語学能力の向上を希望する学生の

ために、オンライン短期留学を昨年度から実施。海外の生活文化や雰囲気を経験することはかなわないうが、「オンラインだからこそそのメリットや特徴がある」と担当者は言う。国際交流課の担当者に話を聞いた。



——オンライン留学のメリットは

普段の生活との両立が可能で参加費用が経済的であることが挙げられる。部活やアルバイトのために渡航型の短期留学では参加できなかった学生が、オンライン留学になり参加できたケースがある。費用が渡航型の数分の一度に抑えられることも魅力ではないか。

——デメリットは

海外を訪れ各国の学生と交流する、生活体験を通じて文化の違いを知るなど、世界を肌で感じる経験ができないことは大きい。

——オンライン留学の特徴は

オンラインだからこそ積極的な授業参加が求められる。発言、質問などを通じ、自ら飛び込んでいくことで、語学授業は渡航型より一層濃密

な経験ができる側面があるのではない。ただし、語学レベル、時期によつてはクラスが日本人学生のみとなるプログラムもあった。プログラムによつては、外国語レベルの条件が設定され、希望のプログラムに参加できないケースもあった。

——留学先の大学はどのような工夫を
各大学は、どのような展開が最適なのかを試行錯誤している。授業でグループワークを多用したり、授業外で各国文化に関するクイズイベントなどの企画や互いの母国語を教えるあう語学パートナーを探す機会を作るなどの工夫がされているプログラムもあった。できるだけコストを抑え、留学生が都合の良いスケジュールで参加できるよう、開始日が柔軟に設定されたプログラムもあった。



国際交流課では、今回のオンライン留学に参加した学生の声や新型コロナウイルスの状況などを踏まえつつ、今後留学など国際交流を希望する学生の支援を行っていきたいとしている。

参加学生の声

実際に今夏、モナツシユカレッジ（豪州）のオンライン留学に参加した大山健太朗さん（法3）は「他の留学生と共同で課題に取り組む機会が多く、どうすれば伝わるかを考えて話す力や、柔軟にコミュニケーションする力を伸ばせた。充実した時間は、将来に繋がる経験になった」と話す。
ダブリンシティ大学（アイルランド）のプログラムに参加した島田遼子さん（法2）は「参加したクラスは日本人学生だけだったが、意欲ある学生ばかりで刺激を受けた。英語だけでコミュニケーションを行う経験ができ、授業を通じて自主性や積極性が向上した。留学終了後も英語の学習を続けている」と述べた。

人間開発学部

オンラインで教育実践フォーラム

国学院大学人間開発学部教育実践総合センター主催の第12回夏季教育講座「国学院大学教育実践フォーラム」が7月18日、コロナ禍を受けてビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を用いたオンライン形式で開催され、全国から700人を超す教育関係者が参加して学びを深めた。

今回は3年間の継続テーマ「新しい教育課程の基準とこれからの教育・保育」の2年目で「子どもの育ちや学びとカリキュラム・マネジメント」が主題。開会に際して成田信子学部長（副学長）が「教育現場では子どもたちの資質・能力の育成に向けた実践が積み重ねられている。その育ちや学びを総合的にとらえ、縦糸・横糸を織り成すカリキュラム（教育課程）の根幹を支える考え方について先進的な提案と活発な議論で深めてもらいたい」とあいさつ。続いて田村学教授が「新しい教育課程の基準とこれからの教育・保育」と題して基調講演した。



開会のあいさつを述べる成田学部長



基調講演を行う田村教授

田村教授は、「カリキュラム・マネジメントとは子ども豊かな学びを実現させ、資質・能力を育成するもの」としたうえで「今回の教育課程改訂は幼児期から小・中・高、大学まで大きくつながる学びへの大変革。カリキュラム・マネジメントには学校全体での教員連携が必要」と指摘。さらに、新学習指導要領にシシクロさせつつ学校の特長に合わせた短期目標を設定することや、同要領が掲げる「深い学び」に向かうポイントとなる「活用・発揮」の可能性を広げることの重要性を強調。そのうえで「教員は従来のように授業内容の向上に加え、カリキュラムを編成する力が求められてくる」と締めくくった。

フォーラムはこの後、「乳幼児期の育ちと学びを小学校につなぐ」、「国語科におけるカリキュラム・マネジメント」など8つの分科会に分かれ、各地の教育現場で展開される先進的な取り組みをもとに活発な議論を重ねた。

コロナ禍の就職活動「最後まで諦めず」

就職活動を続ける4年生をサポートするイベントが続いている。キャリアサポート課では7月21日、ハローワークや大手求人サイトの担当者を招いた「求人フェア」を開催。コロナ禍の厳しい就職環境を反映してか、例年を上回る約100人の就職活動中の4年生が集まった。

リクルートワークス研究所の調べによると、来年3月卒業予定の大学生、大学院生の採用環境は、従業員数5000人以上の企業で求人倍率が0.41倍と前年度より低下しているのに対し、1000人未満の企業では2.55倍と上昇し売り手市場が続いている。

同フェアでは、ハローワークや大手求人サイトが用意した各社の求人票を学生たちが自由に閲覧。興味を持った企業や団体の情報をメモする姿が見られた。会場内には面談ブースが設けられ、専門スタッフが企業情報の提供、採用選考までの流れなどを丁寧に説明していた。

キャリアサポート課の担当者は「この時期の選考はスピードが速い。諦めずに就職活動が続けてほしい」と話した。



新型コロナワクチン 職域接種を実施 学生・教職員ら4500人に

国学院大学は7月26日から渋谷キャンパスで新型コロナウイルスワクチンの職域接種を行った。実施期間は、1回目が26日から30日、2回目が8月23日から27日までだった。130周年記念5号館に設けられた会場で期間中、学生、教職員ら約4500人が次々と接種を受けた。

接種を終えた経済学部3年の男子学生は「地元自治体が行う接種より職域接種が早かったので申し込んだ。痛みはほかのワクチン接種と変わらないように感じた。同居する家族に感染を広げるリスクが減るのでほっとしている」と話した。

経済学部と国学院高校 高校生参加型の高大連携授業

国学院大学経済学部と国学院高校（渋谷区）が高大連携授業の一環として7月17日、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を用いてオンラインワークショップを開催した＝写真。この取り組みは同一法人である強みを生かし、経済学を学ぶ魅力を伝え、高校生に大学進学の意味や目標を考える機会にすることを目的としている。

当日は同高2年生29人が参加。初めに同高出身の在学生8人が学部の学びの特徴を紹介。ゼミは専門知識や主体性など、大学での学びを一つにまとめ上げるものであることなどを伝えた。その後、同高生徒たちは在学生とともにグループワークで、9月以降に始まる経済学部ゼミへの参加の準備を行った。今後は、ゼミ参加のほかに、大学での学びの意味を考えるワークショップが行われる。



手作りスープが数少ないもてなし ホストタウン事業の現場は

蓼科寮管理人 丸山博和さん、みかさん夫妻

東京五輪の陸上競技中長距離種目に出場したウガンダ代表選手をホストタウン事業で受け入れたのは、長野県の東部に位置する立科町だ。町内には国学院大学の厚生施設「蓼科寮」がある。立科町と学校法人国学院大学は平成30年に連携協力の協定（連携協定）を締結。選手団の事前合宿の受け入れに蓼科寮を練習拠点とするための覚書を交わし、ホストタウン事業に協力してきた。寮の管理人として選手団受け入れの最前線に立った丸山博和さん、みかさん夫妻に振り返ってもらった。

大歓迎が一変

連携協定が締結されて以降、立科町、大学、ウガンダ政府特命コーディネーターの奥龍将さんたちと準備を進めてきた。しかし、コロナ禍によって状況が一変。町を挙げての大歓迎という空気ではなくなってしまった。

当初は7月1日からウガンダ選手団を受け入れる予定だったが、現地の状況や泉佐野市での新型コロナウイルスの感染確認で2週間延期となった。泉佐野をめぐる報道を見て、受け入れ側の危機感が一気に高まった。再度、感染対策を見直し、寮の入り口にはバリアードを設置して関係者以外はシャットアウト。選手団だけでなく寮内に滞在する町職員と私たちは、外部との接触を断ち、毎日PCR検査を受けた。

有効だったのはLINEやビデオ会議システムだ。LINEは選手たちの所在把握など現場の情報共有に、ビデオ会議システムで関係者全員が顔を見て話げできたことは不安解消に繋がった。

非接触のもどかしさ

寮の管理人としては「来てくれてありがとう」の気持ちでもてなしたいが、選手たちに接触することはお互いのリスクにも繋がる。「愛想のない、失礼なことをしていないのか」という思いは強かった。数少ないもてなしは、大使館から提供されたハラル（イスラム教の戒律）にのっとった食材で作ったスープ。選手たちには好評だったようだ。

選手滞在中は、気のゆるみから対策が甘くなる時もあった。そこは関係者が相互に指摘しあったおかげで陽性者も出ず選手団を選手村に送り出し、テレビを通して躍動する選手の姿を見られた。

受け入れが終わって、町長からは「大学の施設を使ったことはありがたかった」とねぎらいの言葉をもらった。不安を聞いてくれた大学の職員、千羽鶴を贈ってくれた関係者には感謝している。有志が折り鶴で作ったウガンダ国旗は、選手たちにとっても喜ばれ、今はウガンダ大使館に飾られているという。

これからは、本学学生や卒業生、教職員の宿泊の受け入れが再び始まる。コロナ禍が収束し、皆さんに会えることを楽しみにしている。



ウガンダ選手団が乗る車両に国旗を振る丸山さん夫妻（立科町提供）



スポーツの祭典は何を伝えるのか

五輪開催前に注目が集まった国の一つといえばアフリカのウガンダ共和国だろう。同国選手団が泉佐野市（大阪府）と立科町・長野県で事前合宿を実現した裏には、長年にわたって同国と日本を繋いできた卒業生の存在があった。同国産の綿花を使ったタオル製造を続ける奥龍将さん（平23卒・119期日文、ウガンダ共和国政府特命コーディネーター、株式会社スマイリーアース代表取締役社長）は今後の国際親善をどう見ているのか。

コロナ禍に揺れた選手

家業であるタオル製造会社「スマイリーアース」はタオルの原材料であるオーガニックコットンをウガンダから輸入し、現地の農家と関わりを深めてきた。こうした関係が発展し、ウガンダ共和国政府の特命コーディネーターとして泉佐野市と立科町のホストタウン登録に力を注いできた。泉佐野市は、ウガンダ・グルル市と友好都市提携を結び、またウガンダ教育スポーツ省との連携協定を締結した後、市として独自でホストタウン事業を進めた。私は個人的に来日した選手団と連絡を取り合い、私なりの役割を果たしてきた。

そうした中、来日した選手団で初めて新型コロナウイルス感染者が出たというニュースが報じられた。泉佐野市に滞在したウガンダ選手が一時的に不明になる事件が発生した。オリンピックは国の代表として送り出されている存在で、間違っていた。

相互理解があつてこそ

泉佐野市に滞在したウガンダ選手が一時的に不明になる事件が発生した。オリンピックは国の代表として送り出されている存在で、間違っていた。

泉佐野市に滞在したウガンダ選手が一時的に不明になる事件が発生した。オリンピックは国の代表として送り出されている存在で、間違っていた。

スガ全国に広がり、ウガンダ選手団に敵しい目が注がれた。これは知っているが、背景がある。ウガンダでは新型コロナウイルス・デルタ株の蔓延が深刻化し、6月18日に都市封鎖が始まっていた。そのような状況下の中で、泉佐野市はウガンダとの対話を問わず選手団の来日を進めてしまった。

それが彼らに不運な形で降りかかったと私は分析している。選手団の一部がウイルスを持ち込んだとイメージ悪化は避けられなかったものの、私がSNSで募った選手たちへの応援メッセージは全国から多く寄せられ、民間の草の根で繋がる人の心の温かさが国と国を結び付けていることを実感した。

一方で国学院大学も関わった立科町の受け入れは、関係者がいかに事前の危機管理体制を構築し、安全な事前合宿環境を整えられるかを考え、私もウガンダ側の状況を伝え続けた。「徹底して安全を確保する」という共通認識で対策を講じた結果、選手団は到着した翌日から練習ができた。

動はしてほしくない。当事者は真摯に反省してほしい。ウガンダの人々は日本を「非常に発展した国」と見ている。日本で働きたいと思うのは、ウガンダの人達にとって普通の感覚だということになる。脱走の理由が「ウガンダが貧しいから」と報じられたことだ。首都カンパラは人口密度も、物価も高い。収入に対して生活の出費が多くなり、貧困にあぐらをかいている人が多い。自然災害も比較的に少ない。世界の食糧庫として、発展の可能性も秘めている国であることは、あまり知られていない。私が知る現地のコソト栽培農家は決して貧困ではなく、筋骨隆々で健康な人が多い。まさに「努力すれば報われる」国だ。

国際的な友好親善を促進するうえで大切なことは、相手と「どこか合う、分かち合う」といこと。どう手を差し伸べれば、相手に喜ばれるのかを知らなければ、何をすべきかをまず理解できない。その姿勢や考え方は、今回の2つの自治体（泉佐野市・立科町）で実施されたホストタウン事業にも当てはまる。真の友好関係には相手に寄り添う姿勢と相手を理解する心が重要。それによって結果は百八十

ウガンダ政府特命コーディネーター、株式会社スマイリーアース代表取締役社長 奥龍将さん（平23卒・119期日文）

「分かり合う、分かち合う」 真の国際親善、これから

大学では当時の森田桂・陸上競技部監督から薫陶を受け、今の仕事に生きている。中でも「本当の優しさとは何か」との訓話は、甘やかすことではなく、厳しくとも相手のためになることが優しさだと教えてくれた。「生徒はいい顔しないだろう」と思っても本人のために叱ることに通じ

教員、陸上の原点と今

陸上を始めたのは家族の影響。教師になりたいとも思っており、長距離の強化に乗り出した点と、教員養成に実績がある点に注目し国学院大学への進学を決めた。

ブルノ選手は1年生でサッカー部を辞め、仲の良かった級友の陸上部員に誘われて2年生から入部したが、東京五輪の候補に選ばれたとは思わなかった。本番で走れなかったものの、「練習会場で世界レベルの選手を見て、非常に良い刺激を受けた。その一度は挫折を経験した

大学での学びを役立たせるのは自分次第。こつこつと真

陸上・短距離を始めて5年余りで東京五輪の男子4×100mリレーのメンバー候補入りしたデービー・ブルノ選手（東海大）と競技を結び付けたのは、国学院大学の陸上競技部出身で長野県の松本国際高校（以下「本校」）の山崎豊茂教頭（平15卒・111期日文）。コロナ禍で教育現場は厳しさを増すが、「縁は円」を信条とする山崎教頭は国語と陸上の楽しさを伝えようと、次代へ繋ぐ教育を目指している。

精神面で成長できれば高校生は大きく記録が伸びる。そうした生徒を見る度に森田監督の「花瓶に花を咲かせる」という言葉を思い出す。「花を咲かせるには花瓶に水を注がねばならない。だが小さければ入れにくい。だったら広げればいい」というのが森田監督の考えで、記録を伸ばすには体を作れということ。それを教育に応用し、「いろいろ学んで人間の器を広げろ」と教えている。それが分かる生徒は自分を磨いていくことができる。教科の学習に限ったことではなく、陸上で周囲の成長まで考えて行動できるようにになると、生徒は人として大きく成長する。その様子を見守れることが教師のやりがいだ。

ブルノ選手は1年生でサッカー部を辞め、仲の良かった級友の陸上部員に誘われて2年生から入部したが、東京五輪の候補に選ばれたとは思わなかった。本番で走れなかったものの、「練習会場で世界レベルの選手を見て、非常に良い刺激を受けた。その一度は挫折を経験した

ブルノ選手（左）と山崎先生（松本国際高校陸上部提供）

彼らは、陸上で自分の器を広げられた。級友のおかげで人生を変えられたといえる。中国の故事成語「知音」ではないが、互いを知る最高の友達に巡り合えたのは彼らにとってよかった。

山崎先生は高校の国語科教員として千葉県と山梨県の高校で教鞭を執った後に現在の勤務校に移り、令和3年から現職。

オリンピックを指導 次代の教育へ「縁は円」

松本国際高等学校教頭 山崎豊茂さん（平15卒・111期日文）

東京五輪・パラリンピックは、何をレガシー（遺産）として、私たちの成長の種として未来に伝えるのだろうか。高等学校の教員、陸上部の顧問としてオリンピックを育て上げた松本国際高等学校教頭の山崎豊茂先生とウガンダ政府特命コーディネーターとしてホストタウン事業に関わった奥龍将さんの言葉から探ってみよう。

やまざき・とよしげ

平成15年国学院大学文学部日本文学科卒業。松本国際高等学校教頭。千葉県市原市出身。中学時代に陸上・長距離を始め、国学院大学入学後は陸上競技部に所属。卒業後は高校の国語科教員として千葉県と山梨県の高校で教鞭を執った後に現在の勤務校に移り、令和3年から現職。

松本国際高等学校

長野県松本市にある私立学校（男女共学、全日制・通信制。昭和20年に設立された洋裁学校を母体とし、塚原青雲高校、創造学園高校を経て学校法人理知の杜が運営するようになり、平成30年に現在の校名に）。令和3年4月に松本国際中学が開校し中高一貫教育がスタートした。

知音

心の通じ合った親友を指す故事成語。古代中国の春秋時代、琴の名人・伯牙は、その音の理解者だった友人の鍾子期が亡くなると、「音を知る者がいなくなった」と琴の弦を切り、再び弾かなかったという故事（「列子」）にちなむ。

おく・たつまさ

平成23年国学院大学文学部日本文学科卒業。在学中は陸上競技部に所属し、同部が初めてシード権を獲得した第87回箱根駅伝では9区を走った。卒業後は、家業の株式会社スマイリーアースの3代目としてタオル製造の道へ入り、父とタオルづくりに取り組む。同社の「地球を汚さないタオル製造技術の開発」は、平成29年に「日本水大賞」、平成30年には「ものづくり日本大賞」、在外公館長表彰など受賞多数。最近では、所有している山や畑の価値を高めるため、林業や農業にもいそしむ。

ウガンダ共和国

アフリカ大陸の東に位置し、南スーダン、ケニア、タンザニアなどに囲まれた内陸国。日本の本州とほぼ同じ広さで、赤道直下に位置する。陸上競技中長距離種目の強豪国で、東京五輪では、男子5000mなどで4つのメダルを獲得した。

日本とウガンダの交流

奥さん・本学からの交流が進展し、会社のある泉佐野市と同国北部のクル市は平成29年に、国内の自治体で初となる友好都市提携を締結した。東京五輪に向けて、泉佐野市では同国選手団を受け入れるホストタウンプログラムの登録をいち早く実施した。また長野県立科町は同国五輪選手団のうち陸上競技中長距離種目に出場する選手の事前合宿を受け入れた。立科町と学校法人国学院大学の連携協定などに基づき、本学厚生施設「蓼科寮」を選手団の宿舎として提供した。

詳細は本学HP「国学院大学メディア」に掲載

オリンピックトークウェビナー

私たちがオリンピックで経験したこと

国学院大学には、これまで実際にオリンピックに出場したり、出場選手をサポートしたりする経験をもつ教員が多く在籍し、またその関わり方や競技もさまざまです。アスリートにとって世界最高峰の舞台とも言われるオリンピックについて、メディアなどではあまり語られることのない舞台裏や、自身がオリンピックと関わって感じたことを人間開発学部の教員陣がそれぞれの経験をもとに掘り下げて語ります。

日時

10月6日(例)14時～

開催形式

ビデオ会議システム「Zoom」によるウェビナー

主催

人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンター

インフォダイジェスト

... 在学生
 ... 保護者
 ... 卒業生
 ... 一般
 ... 受験生
 内容
 日にち
 時間
 場所
 対象
 申し込み
 料金
 問い合わせ

大学からのお知らせ

台風9号から変わった温帯低気圧に伴う大雨などで被害に遭われた皆さまへ

内 上記の災害などにより災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（保護者等）と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。

対 適用対象地域は本学HPで確認してください

問 ▶ 学生生活課（☎03・5466・0145）

▶ たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）

▶ 大学院事務課（☎03・5466・0142）

イベント

第6回 地域交流スポーツフェスティバル

内 日頃気になる健康指標、楽しみながら測定してみませんか？ スポーツフェスティバルでは、広いスペースでの体力測定、研究施設だから提供できる測定器を使った骨密度測定、体組成測定などを無償で体験することができます。体験する機会の少ないスポーツや、未就学児対象のアスレチックスペースなど、体を動かすコーナーも充実しています。楽しみながら「見える健康」を提供します！ 入退場自由。新型コロナウイルス感染状況によってはオンラインで開催。

日・時 10月24日(日)10時～15時

場 たまプラーザキャンパス

対 お子さまから高齢者まで。年齢不問

料 無料

申 対面の場合は特に申し込みは必要ありません。オンライン開催の場合は本学HP（QRコード）から申し込み

問 人間開発学部 地域ヘルスプロモーションセンター



キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

企業セミナー

内 期間中ほぼ毎日、各業界のリーディングカンパニーの採用担当者が参加し、業界や企業の説明をします。参加する企業は、個別の企業説明会では予約が取れない優良企業ばかりです。自分が何をしたいか決まっていな人は、まず企業の話聞いて興味・関心の幅を広げていきましょう。

日 10月11日(月)～11月26日(金)

対 1～3年生

博物館

料 無料

時 原則、水・木・金・土曜日の12時～17時（最終入館16時30分）。短縮開館

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

特別展『『日本書紀』撰録1300年—神と人とを結ぶ書物—』

内 『日本書紀』は養老4年に成立した日本最初の正史です。令和2年は、『日本書紀』成立から1300年にあたり、また、大正9年に皇典講究所で開催された「日本書紀撰進千二百年記念会」から100年の節目の年でもありました。

本展では、本学と各地の神社が所蔵する『日本書紀』の貴重な古写本や注釈書を展示し、奈良時代から中古・中世・近世にかけて『日本書紀』が「神と人とを結ぶ書物」として、いかに日本の文化や思想に影響を与えてきたのか、また「日本書紀撰進千二百年記念会」を開催した皇典講究所・国学院における『日本書紀』研究の歩みを見ていきます。

日 9月16日(木)～11月13日(土)

場 企画展示室・校史展示室

アンケート回答者の中から10名様に読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で10名の方に、今号「特集 スポーツの祭典は何を伝えるのか」で紹介した奥龍将さんが手がけるウガンダ産オーガニックコットンのハンドタオルをプレゼントします。アンケートはQRコードから（締切：10月10日(日)）。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

アンケート回答者の個人情報は法令に基づきプレゼントの発送に限り使用します。



新型コロナ関連のお知らせ

対面授業受講上の留意事項

内 キャンパス内での感染を防ぐため、次の留意事項に基づいて対面授業を受講してください。

●基本的な留意事項

◇継続的に手洗い、咳エチケットの徹底を

◇「3密」を避ける取り組みを

◇免疫力を高める十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事を

●具体的な留意事項

◇毎朝検温をし、「検温表」へ必要事項の記入を

◇発熱や咳などの風邪症状がみられる場合、同居する家族、身近な知人に感染が疑われる場合は登校を控え、授業は欠席を

◇授業開始時に担当教員から求められた場合、「検温表」への記入を

◇大学構内では必ずマスクの着用を

◇入退館、入退室時には手指消毒の徹底を

◇体温調節ができる服装で来校を

◇教室では着席不可の席には座らない

感染が疑われたら保健室に連絡を

内 新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。

▶ 保健室アドレス☒hoken@kokugakuin.ac.jp

▶ 渋谷TEL（平日・土曜9時～17時）

☎03・5466・0148

▶ たまプラーザTEL（平日・土曜9時～16時）

☎045・904・7660

「3密」を避けよう



密閉空間



密接場面



密集場所

咳エチケット



マスクがあれば正しく着用する



ハンカチやティッシュペーパーで口と鼻を覆う



服の袖や肘の内側で口と鼻を覆う

「つくる」個性から、「なる」個性へ 「愛する自分を大切に」

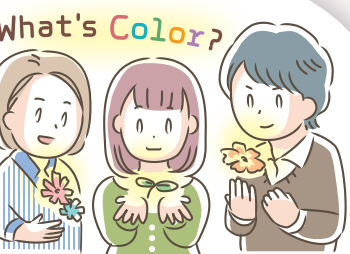


名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。
人間開発学部初代学部長、専門
は教育社会学、人間発達学。新し
い時代の子育て論には定評。

東京パラリンピックは、私たちに多くの感動を残してくれました。「この子らに世の光を」ではなく、「この子らに世の光に」という知的障害児施設・近江学園の糸賀一雄氏の言葉が頭をよぎりました。「この子ら」とは、知的障がいのある子どもたちのことです。誰とも取り替えることのできない個性的な自己実現をしている子どもたちです。

「小ささは小さきままに折れたるは折れたるままに」コスモスの花咲く。これは、障害児施設しのみ学園の鼻地三郎氏の短歌です。野に咲くコスモスも、短いのも折れているものもあります。が、「一本一本、花を精いっぱい秋空に向けて広げている様は、見事です。前回、こうした「真の個性」について述べました。個性とは主体性（一生涯懸命）であり、個性尊重の社会とは、自分らしく一生懸命頑張った結果としての多様性を尊重する社会のことでした。実は、SMAPも同じ



趣旨の歌を歌っています。す。「世界に一つだけの花」です。「そうさ 僕は 世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」。このフレーズが繰り返し歌われています。個性は、他者が「つくる」ものではなく、自ら「なる」ものです。「つくる」ではなく、「なる」。これが、「古事記」を原点とする本学の「修理固成」の子育ての理念でした（本紙令和2年11月号）。では、どうすれば個性が「なる」のか。それには、周囲の人々の温かい心の「手当て」（手を当てる）が必要です。その一つが筆者の説く、「ナメクジは 殻持たぬゆえ疎まれる」です。ナメクジは、カタツムリより一つ進化した生物です。しかし、カタツムリは童謡にして歌われる一方で、ナメクジは忌み嫌われ、塩もて追われる存在です。子どもたちも、見方一つで、カタツムリにもナ

団体・個人の成績

蹴球部＝東京都大学サッカーリーグ戦1部リーグに所属する同部は、延期となった試合を除き、26節中21節が終了した9月12日時点で11勝3敗3分け・勝ち点36、13チーム中1位となっている。

強化部会の主なスケジュール

陸上競技部＝第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走（10月10日(日)12時5分・出雲大社正面鳥居前（島根県出雲市）～出雲ドーム（同））

硬式野球部＝東都大学秋季1部リーグ 対駒沢大①（9月27日(月)14時30分・神宮球場、同②（10月1日(金)14時30分・同）、対亜細亜大①（10月18日(月)12時30分・同）、同②（10月22日(金)9時・同）

令和3年度
ホームカミングデー

電波でつながれ、院友の思い出

院友と大学をつなぐホームカミングデー

今年もオンラインによるライブ配信（予定）で開催！

- 開催日
- ①11月27日(土)
②令和4年1月22日(土)
③令和4年3月12日(土)

詳細は今後ホームページ（QRコード）でお知らせ

国学院大学校友課

〒150-8440

東京都渋谷区4-10-28

☎03(5466)0131

✉hcd@kokugakuin.ac.jp



コロナ禍の課外活動

相次ぐ大会の中止・延期 学生たちは今

新型コロナウイルスの新規感染者が連日過去最多を更新した今年の夏。長引く緊急事態宣言の影響は、学生たちの課外活動にも影を落としている。

●大会の中止も自らを鍛える機会へ

コンタクトスポーツの柔道は、メダルラッシュに沸いた五輪とは裏腹に多くの大会が中止や延期に。それでも、柔道部の武岡毅主将（日文4）は「自身の強みも弱点も鍛えられる期間が長くなる」と練習に励む。

「練習では手指や柔道場の消毒に加え、気管支の乾燥対策で水分補給も意識している。大学が定める制限内で活動するため、ウェイトトレーニングのタイミングが限られる。出稽古ができず練習相手が部員に限られるので、マンネリ化しやすいなど影響はある」と話す。一方で選手の意識が向上した点も。「寮でも対策を徹底し感染者は出ていない。健康管理の意識は格段に高くなった」と話す。「大会中止などで一時的にモチベーションは下がるが、切り替えて練習に臨んでいる。主将として、コロナ禍でも一番練習し、試合に臨む姿勢を見せたい。柔道は大会で勝ち上がることがモチベーションなので、一つ一つの試合を大切に臨んでいきたい」と決意を語った。

●開催される大会に感謝し、日々練習

9月に新たに卓球部女子の主将に就いた高橋沙希選手（法3）。8月に山形県で行われたミニ国体に出場したが、大会最終日に出場者の中で陽性者が確認され、試合は中止になった。今月、三重県で行われる予定だった国体も、直後に中止が決まった。身近に潜む感染リスクに「大会期間中の中止は初めて。感染対策は徹底しないといけない」と振り返る。女子チームは、7月に行われた全日本大学総合卓球選手権大会団体の部で3年ぶりに入賞（第6位）し、上り調子だった。しかし、その後の大会は軒並み中止。「大会は減ったが、開催されることに感謝して、試合に悔いが残らないように練習している」と前を向く。

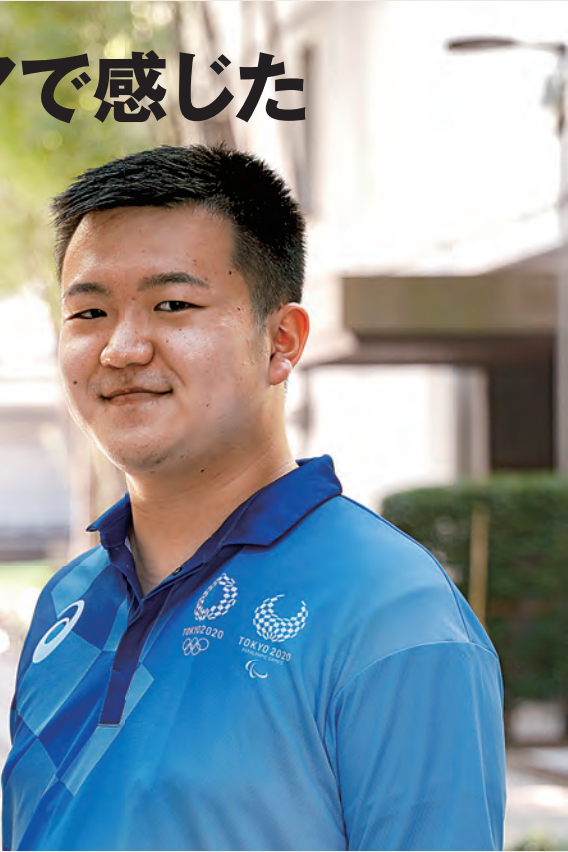
男女ともに2部に所属する関東学生リーグは昨年の春から4季連続の中止が決まった。男子の新主将となった村上達哉選手（日文3）は、相次ぐ大会中止に「しょうがないと思う気持ちを消化できていない」と漏らす。「大学で一番大事な試合」というリーグ戦だが、来年度再開されても経

大会ボランティアで感じた「人生の糧」

岩崎航大さん（法4）

東京五輪・パラリンピックを支えたボランティア。組織委員会が募集した「フィールドキャスト」と呼ばれる競技会場や選手村などで活動するボランティアは延べ7万6千人に上った。五輪閉会式では大会ボランティアを表彰するセレモニーが行われ、その存在の大きさを印象付けた。

実際の大会運営の舞台裏はどのようなものだったのか。馬事公苑（東京都世田谷区）で行われた五輪・馬術競技の会場でボランティアを務めた岩崎航大さん（法4）に話を聞いた。



東京五輪・馬術競技の会場で4日間、大会ボランティアとして活動した。ボランティアに応募したのは、自国開催の五輪で「せっかくなら大会運営に関わってみたい」という興味と英語を使ってみたかったから。これまでも大学から紹介された国際会議のボランティアや地域のNPO活動に参加してきた。

五輪開催前は、新型コロナウイルスの感染が収束しない中で大会に否定的な思いもあった。しかし、大会に向けて頑張っている人はいる。政治学を専攻する学生として現場を見てみたいという思いが勝った。会場で任された仕事は「プレスオペレーション」。各国から集まった報道関係者の誘導や記者席の設営などだ。新型コロナ対策の消毒や換気も含まれた。活動を共にしたボランティアは世代が幅広く、女性が多かった。日韓共同開催となった2002年サッカーワールドカップ以来、多くのスポーツの

国際大会を経験している人も。

これまで馬術競技に接したことはなかったが、海外から訪れていた運営スタッフの中に元選手がいて、英語で馬術の面白さを熱く語ってくれたことが印象に残っている。スポーツイベントに主体的に関わり、選手や報道関係者と接する中で、スポーツは人生を豊かにするという思いが湧いた。観戦するだけでなく、競技を通して感動を届ける側に立てたことは、人生の糧になると思っている。

欧米からやってきた組織委員会スタッフや報道関係者が多かったが、自身の英語は7割くらいしか通じなかった。直前に英語の検定試験を受験するなどリスニングなどに力を入れていたが、生の英語は違った。半年後には社会人となるが、改めて意思疎通のツールとしての英語力を鍛え直したい。（談）

験者は現3年生だけになる。「団体戦は経験がないと緊張するが、それは他大学も同じ。自分たちの力を出せばチャンスがある」とチームを鼓舞する。

「練習ができることに感謝」と口を揃える両主将。限られた大会で目指すは「全国大会入賞」と迷いはない。

●演奏のために、今できる工夫を

音楽系の部会もコロナ禍の影響は甚大だ。吹奏楽部は、日々の練習や演奏会などが十分に行えない中で、活動を継続している。主将の仁井田詩乃さん（日文3）は「コンクールや学外からの演奏依頼など、練習の成果を披露する場がなくなってしまった。集合練習も思うようにできず、モチベーションの維持が大変。新入部員と直接会う機会やOB・OGとの交流の機会が減り、人とのつながりへも影響が大きい」と話す。それでも「オンラインでパート単位のセッション練習に取り組んだり新入部員と一緒にマーチングの基礎など音楽の知識を勉強したり、今までなかなかできなかったことを補う機会を設ける工夫をして活動している」と取り組みを語る。「今は演奏を披露できないが、その時が来たらより良い演奏ができるように、できることにしっかりと打ち込んでいきたい」と練習への思いを語った。

K:DNA——創立139年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

硬式野球部

東都連覇へ 秋季リーグ開幕

東都大学野球1部秋季リーグ戦が9月13日、神宮球場（東京都新宿区）で開幕した。春季リーグで11年ぶりに1部を制した国学院大学硬式野球部は大学初の春秋連覇を目指す。

開幕戦を前に開会式に臨んだ同部は、優勝旗、優勝杯を返還。福永奨主将（健体4）が選手宣誓を務めた。開幕カードは春季2部リーグを制し1部に昇格した日本大学との対戦。三回裏、内野ゴロの間に三塁走者が生還し先制を許すと、五回裏にはソロ本塁打で追加点を与え、0-2と点差が広がった。

春季好調だった打線は、八回表に二死から山本ダンテ武蔵選手（経4）の安打などで満塁の好機を作るも、後続が倒れ無得点。直後に失点し、0-3で敗れ黒星発進となった。

16日に行われた2回戦は、初回に二死一塁から4番・山本選手が二塁打を放つと、一塁走者の川村啓真選手（経4）が一気に本塁を陥れて先制。続く5番・山本大輔選手（健体3）の内野安打と敵失の間に追加点を挙げ、幸先よく2点をリードした。

先発の坂口翔颯投手（経営1）は六回を投げ、被安打1、無失点と好投した。七回以降は、開幕戦にも登板した楠茂将太投手（法3）、池内瞭馬投手（経ネ4）の継投。再三走者を許したものの粘りの投球で序盤のリードを守り切り、2-0と開幕戦の雪辱を果たした。



開会式で選手宣誓を行う福永奨主将（健体4）



安打を放つ山本ダンテ武蔵選手（経4）



2回戦勝利投手の坂口翔颯投手（経営1）



情報をお寄せください

「部員の人数が足りず、団体戦に参加できない」「人数がそろわなくて演奏ができない」など少人数で困難を抱えながら活動し続ける大学公認部会の情報をお寄せください。今後不定期連載で紹介していきます（紙面の都合などにより紹介できない場合があります）。

【問】広報課（☒kouho@kokugakuin.ac.jp）

pomme poche

手作りアクセサリーで広がる笑顔



pomme poche

設立は平成26年。4年生3人、3年生1人、2年生2人で活動中。メンバーはそれぞれ好みに沿ったアクセサリー作りを楽しむ。「アンティーク系が好きなのもいるし、華やかなデザインが得意な人もいます。自分で作ったアクセサリーは普段から身に付けられるし、家族に贈って喜んでもらっている」（山崎さん）。

▶ Twitter：@pomme_poche

「自分が作ったものを身につけられるのは楽しい」。アクセサリーの創作を楽しむサークル「pomme poche（ポム・ポッシュ）」の代表、山崎遥花さん（法4）はそう話す。ネックレスやイヤリング、かんざしなどのヘアアクセサリーまで、サークルに集う学生たちは思い思いに創作に励む。

創設7年目の「pomme poche」は、4年生を中心に6人で活動している。新型コロナウイルスが蔓延する前は、週に1度、渋谷キャンパス内の共用室に材料を持ち寄って、お茶を飲んだりおやつを食べたり雑談をしたりしながらアクセサリーを作っていた。「みんなでおしゃべりするのが楽しみで来ている人も多い」と山崎さん。「密」を避けられないと現在は、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使っでの活動が続く。

個人の趣味としても愛好者が多いアクセサリー作りだが、「同じ趣味の仲間が集まることで、作り手同士だから伝えられるアドバイスや感想があるし、作品を交換することもある。何より一人で始めるより初心者にとっては、ハードルが低いのでは。私も先輩たちにいろんなことを教わった」（山崎さん）とサークルとして集まることの利点は多い。

今の課題は、不在の1年生を中心に新たな仲間を増やすことだ。「趣味でもともとやっていた人もいれば大学で始めた人もいます。兼部、中途入部も大歓迎です」。服装の自由度が広がる大学生活。ハンドメイドアクセサリーは趣味を広げるだけでなく、在宅時間の充実も、おしゃれの幅も、友人や家族との話題も、笑顔も広がるきっかけになりそうだ。